

日 時：2008年4月12日（土）13：00～16：00 その後17時まで懇親会が行われた。

場 所：足立区こども家庭支援センター2F会議室

出席者：役員；鈴木秀夫（高12）・西尾宣明（高4）・蘭香代子（高20）・高木成幸（高13）・佐藤宏秀（高12）・大井和彦（高18）・富澤誠（高13）・加藤淳子（高26）・市川宏（高14）・谷本多美子（高14）・田中泷子（高13）計11名

学年幹事；渡辺澄夫（中21）・渡辺済（高2）・三浦俊一（高5）・村田光章（高7）・西尾武彦（高7）・松倉収（高7回）・木幡精一（高8）・佐藤重男（高13）・山田道子（高13）・佐藤直之（高13）・深沢静子（高13）・今野三雄（高17）・矢島幸子（26）・藁谷至（高44）計14名

事業部幹事；荒川純一（高7）・牛渡尉家（高12）・蘭香代子（高20・副支部長兼務）計3名（兼務含む）

合計27名

議事録作成者：谷本多美子（高14回）

議事を始める前に挨拶と出席者全員の自己紹介があった。

- ◎ 開会挨拶 高木幹事長
- ◎ 支部長挨拶 鈴木東京支部長
- ◎ 出席者自己紹介（氏名・回卒・出身町名）

## 議事

### 議題1. 佐藤宏秀氏（高12）の処遇問題について

本年度の新年総会で佐藤氏の副幹事長（広報新聞担当）について発表があったが、この件に関して鈴木支部より説明がある。佐藤氏の同窓会新聞発行の実績から、満場一致で決定した。今後同窓会名簿の発行などもあがるが、プライバシー保護の問題など、プロの立場で解決できるのは、佐藤氏しかいない。肩書きがないと活動しにくいということにならないよう、副幹事長という役職についてもらった。広報担当役員にしようと思ってメールを送ったが、佐藤氏に届いていなかった。

高木：会誌（双高東京同窓会新聞）は会を運営してゆく上で重要な媒体と思っている。年会費が（特に総会・新年会に参加しない者にとっては）どのように還元されているのか理解できないとの意見が多かったが新聞発行によって、これ等の意見がなくなったと聞いている。従って新聞発行に携った佐藤氏の功績は大きい。

佐藤：鈴木氏のサポートの意味で引き受けたが、肩書きは不要と伝えてあった。これまでは年1回新聞を発行して来たが、任期中は年2、3回にもっていききたい。新聞づくりは労力を要するので、あと2、3回でバトンタッチしたい。西尾氏とも相談した結果、組織図の中でどうするかではなく、もっと若い人に引き継いでもらいたい。

西尾：組織について、規約があるので、はっきりしたほうがよいと思う。副支部長をふやすなどしてできるのではないか。

渡辺（高2）：組織的にしてイデオロギーを反映する必要はないと思う。編集部を5、6人置くなどしてはどうか。

高木：同窓会規約第06条では、支部長・副支部長・幹事長までは総会において推薦し、副幹事長は支部長が依託するとある。

富澤：佐藤氏が堅苦しくなく気軽に仕事ができるように、はっきりした位置づけがあったほうがいいのではないか。

鈴木：私にないものを佐藤氏に發揮してもらいたい。

## 結論

### 佐藤宏秀氏が副幹事長（広報新聞担当）に決定

### 議題2. 事業計画；新年会がなぜ1月か。

三浦：会計報告もあるので、1月が一番よい（三浦）。

渡辺：4月の半ば、年金の時期がよい。

高木：役員会（3/1）でこの問題が出た。決定は役員会でということに総会で決っている。

富澤：新年会を年2回にするかどうか。

高木：規約09条では、総会は毎年1月に1回。

鈴木：年2回にするかどうかの問題ではなく、若い人をどう集めるか。寒いときに年配者が出歩くのはどうか。

佐藤：新聞発行の立場からすると、5月くらいにもってきて、きちんとした数字を出す。

西尾：1回でよい。総会の後、懇親会をする。

村田：規約を変えればよい。

市川：会計の立場から、12月に請求書を発送すると金額が伸びる。4、5月だと、気持ちが緩んでしまうことも懸念される。

加藤：4、5月は年度末で忙しい。

高木：会計年度は1～12月に決まった（総会で委任された3/1の役員会で）。総会は決算が出た後で開催すればいい（会則では毎年1回、原則として1月に開催とある）。他の会名は新年会にするか、名称を変える必要があるか、新入生を歓迎する会にするか決めればよい。

富澤：4、5月にすると半年間会計の報告があいてしまう。

鈴木：趣味の会を増やしていこうという考えもあるので、集まりをふやしてもいいと思う。

高木：今年の総会で会計年度は役員会で決め、次年度総会に報告することになった。

西尾：会計年度は役員会でと記憶している。  
 村田：今日の会は総会か学年幹事会か。役員会は開かれているのか。答えはYes（1・3月に決まった）。  
 高木：事業計画について本来は役員会で決められる。  
 西尾：役員が提案したものを、学年幹事会で決める。  
 高木：規約には細かく書いていない。合同会議で発表して、意見を仰ぐ。

## 結論

**会計年度は1～12月とする。**

牛渡：規約を読んで素直に解釈していいと思う。ここで決まったことは報告しなければならないが、参加しない人に議決権はない。  
 佐藤：役員会で決めて、学年幹事会に報告する。  
 西尾：これまでは役員会で決めて、幹事会で叩いてもらっていた。  
 村田：規約の文言がおかしい。

**会則通りに執行してゆくので、この件について議事録に残しておく。**

## 議題3. 学年幹事の委嘱について

西尾：毎回案内は60通出す。返信がくるのは約30通。出欠状況の現状について、出席者の中でも否諾はある。また欠席者の中でも応諾者ある。役員会で委嘱するかどうかは私にはわからない。新年会では旧役員の名で出ていた。新役員の名簿は公にはしていない。鈴木支部長には役員推薦の連絡が随時ある。学年によっては名前が出揃ってきたものがある。止めたいという人も多い。  
 高木：学年幹事にはなりたがらない人が多い。  
 渡辺：同じ学年で5人は多いのではないか。  
 XX：高17は在京人数が少ない。（どなたの発言か忘れました）  
 XX：関係者が多いと集まる人数も多い。（これも筆記しそびれました）  
 鈴木：学年幹事を引き受けてくれるかどうか、役員会で会員にはがきを出した。5クラスで200人まで上げていくにはどうしたらいいか。18回卒が60歳になって地域にとられていく前に同窓会に集ってもらいたい。二桁台の出席者がいる13回生はどうして集めているのか、そのことも把握していく必要がある。  
 三浦：一律に学年幹事の人数を決めるのは難しい。ゼロのところもあるくらいだから、一人でも二人でもよいと思う。  
 高木：若いところが全然出て来ないが、どうしてか。  
 藁谷：こちらの同級生とも連絡を取り合っていないので、今まで参加しなかった。どういう会かもわからないので参加できなかったが、出てみるとザックバランな会だった。  
 村田：ゼロを無くすために、目標をもって誰か一人を見つけるのはどうか。  
 矢島：年輩の人が多くて出にくい。知らない人も多い。葵会館で行われたとき、新人歓迎会があったが、あのようなことは今はないのか。  
 高木：新人歓迎会も考えていったほうがよい。若手から掘り起こしていきましょう。  
 佐藤（重）：私も冨澤氏から誘われて出席するようになった。  
 渡辺：学年のクラス会を多く開いているうちに、その中から核になる人が出て同窓会の幹事へと発展していくのではないか。  
 高木：同窓会を活性化（出席者を多く）するには「独自の同級会を開き、身近なところから交流」して行くことが効果は大きいようだ。同窓・新年会直後のクラス会も出席率大に繋がっているようだ。

休憩を挟む

## 議題4. 名簿

高木：会員名簿、できてはいるがどこにあるのかわからない。  
 冨澤：斉藤前支部長を通して、名簿を作る会社にロッピーを送ったが、その後どこにいったかわからない。  
 鈴木：80周年記念のとき、同窓会本部に送ったが、その後どこにいったかわからない。  
 高木：会の運営（会費振込み用紙送付や新聞発送・・・）には名簿が最重要になる。名簿担当責任者が必要。  
 市川：渡辺氏より受け取ったが判別しにくい。  
 冨澤：関東一円を調査して作る。

**冨澤氏名簿担当責任者に決定（ご自身の申し出により）**

西尾：播磨のサルトに名簿の発送を依頼している。新年総会の案内はサルトで2400名くらいの会員に出していると思う。サルトで発送の結果連絡をしてくれる。サルトで名簿の発行をしてもらえるのではないか。  
 佐藤：サルトで発行しているのは双高全体の名簿。  
 高木：双高同窓会とサルト間では名簿に関する契約が出来ていると思う。ただし東京同窓会とは出来ていないようだ。個人情報保護法の問題上、双高同窓会もサルトも動けない可能性が考えられるので支部長が本部同窓会に確認し最新名簿がサルトより出してもらえるのか図って戴きたい。この場合東京同窓会とサルト間で何らかの契約が必要となるかも。

## 議題5. 事業部のお知らせ

## ゴルフ会

荒川：高齢化が進み、出席者も少なくなり、1、2年前に止めようかという意見も出たが、野球部のOB会があることを知り、ジョイントして6月に第2回野球部OB会合同ゴルフ会の開催を予定している。今後これで継続していくことになると思う。

高木：他の高校では、ゴルフのような同好会はホームページで開催を案内し、写真を掲載し誰でも見たり、参加の申込が出来るようになっている。

## 囲碁の会

牛渡：双高卒業生が中心になっていたが、40回までで解散した。高齢化が進んで経済的にも負担が大きくなった。事業部の一環としてやっってはどうかと支部長より、発案があった。そこまではいっていないが、今年は1回だけ開催したいと思っている。現在14人が会員登録している。以前のメンバーにも呼びかけたい。

高木：参加者に予定を連絡しておくといいのではないか。

牛渡：9、10月の予定。八重洲口に囲碁センターがあるが、予約は3か月前。

## 相談部

蘭：若い女性の参加に期待して立ち上げた。同窓会で子育て相談があつて思いついた。細々とだが、先ず窓口を設けて出発していきたい。

高木：各部の責任者を決めてはどうか。

## (次のように決まる)

ゴルフ同好会…井戸川

囲碁同好会 …佐々木

相談部

…蘭

## 議題6. ホームページについて

インターネット社会になり時代は変わった。ネット通信が全てでは無いが経費節減には利用すべきだ。Eメールのアドレスを持っている方にはEメールで案内をさせて頂くことにより、通信費が節約できる。この節約した分を、インターネットを得意としない方に還元すべきだ。即ち、従来以上に会務を電話や郵便で案内することが出来るようになる。ホームページは会の求心力となり得る。今はフリーサーバが持てるのでサーバの経費はかからない。

佐藤：地元の高校ではもっている。双葉とリンクしてはどうか。

藁谷：ホームページを作ったあとが大変。発信後月1回は更新作業をする必要がある。そうしないと見てもらいなくなる。

高木：香川県のある高校ではHPを通じてグループができています。

東京支部だけで1千名以上集まる、と日経新聞の夕刊に出ていた。

佐藤：ないより（ホームページ）はあったほうがいい。問題は更新、セキュリティーなど、作った後誰が管理するか。

高木：まとめとして、サーバはフリーサーバを利用しサーバ経費なし。管理責任者（双高の東京支部を総括する人）を置く。ワーキンググループを作って製作に着手する。総会の資料を作るころに合わせて秋口までには立ち上げる。藁谷氏、高木でスタートする。目標：新年総会をきれいなホームページで案内出来るように立ち上げる。

最後に東京双葉同窓会のニックネームについて意見が交わされ、引き続いての懇親会の席で『東京せんだん会』と決定する。

以上